

月刊しばうら

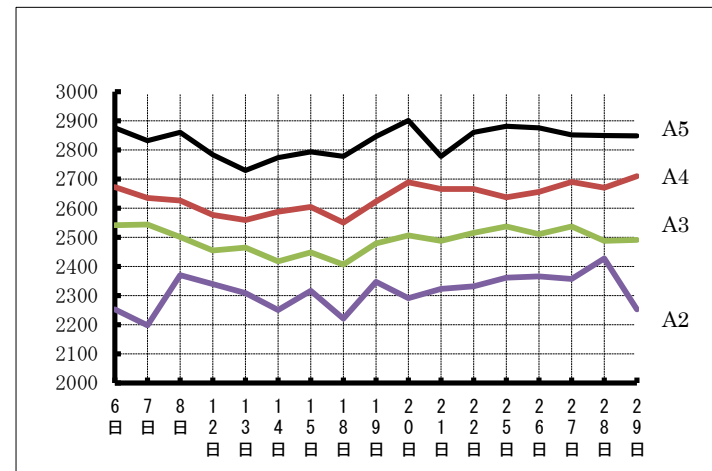
2016年 2月号

大動物事業部

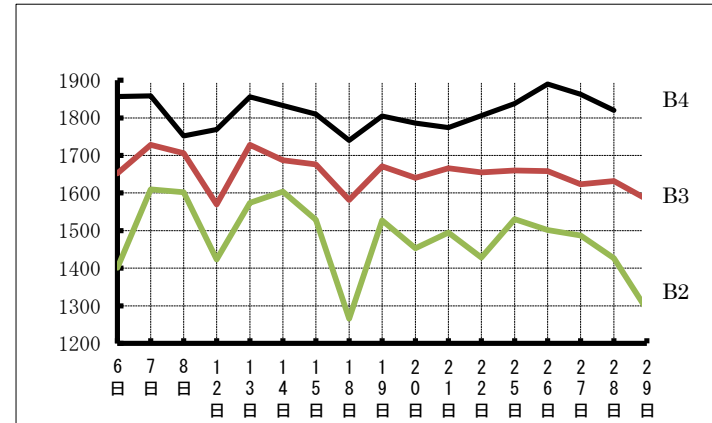
< 1月の相場動向 >

1月の牛枝肉相場は、和牛去勢の規格すべてにおいて前年同月実績を上回る展開となった。昨年からの単価高で需要の減少が懸念されたが、相場は年明けから堅調に推移。外食や小売の荷動きが予想より良かった為、年始の引き合いは強く、年末に比べ緩んだものの例年以上の高値相場となった。月の後半になると4,000頭を越えていた全国と畜頭数が3,000頭台になる日が増え、和牛は4等級が再び2,600円台後半となり、3等級も2,500円台に乗せる相場が多くなった。一方で、交雑去勢牛は2等級の仕上りの悪い物は値を下げ、3等級も軟調傾向が続いているが、4等級は概ね堅調に1,800円台で推移した。

和牛去勢 日別相場表 (1月)



交雑去勢 日別相場表 (1月)



和牛去勢月平均	前年同月比	前月比
A5 2,832円	114.5%	96.7%
A4 2,638円	114.9%	97.1%
A3 2,487円	116.9%	97.8%
A2 2,306円	117.1%	97.3%
交雑去勢月平均	前年同月比	前月比
B4 1,813円	118.0%	92.6%
B3 1,685円	116.6%	92.5%
B2 1,487円	113.2%	94.9%

乳牛去勢月平均	前年同月比	前月比
B3 上場なし		
B2 1,042円	149.3%	120.5%

< 2月の全国出荷頭数予測 >

農畜産業振興機構によると、平成27年10月から平成28年3月までの生産見込みをみると、合計で約2%減、うち和牛は繁殖基盤の縮小により出生頭数が減少したため、3%減と予測している。2月の出荷予測頭数は、8万8,300頭で今年とはと畜稼働日数が閏年のため前年を上回ることから前年比2.9%増と予測している。品種別にみると和牛は1.2%増の3万6,900頭、交雑種は7.8%増の1万9,100頭、乳用種は2.2%増の3万700頭としている。

東京食肉市場の2月のと畜頭数は7,100頭を予定しています。

< 2月の牛枝肉相場見通し >

年末年始の出費の反動などで消費が減退し、節約意識が高まるなどで、高級部位を中心に需要が伸び悩む時期だが、引き続き供給不足などから牛枝肉相場は前月の保合い相場になると思われる。ただ、交雑種については前年に比べ、出荷頭数が増加傾向にあり下方修正される可能性もある。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,700~2,800	B4	1,700~1,800
A4	2,600~2,700	B3	1,600~1,700
A3	2,450~2,550	B2	1,450~1,550
A2	2,200~2,300		
乳牛去勢			
B3	1,150~1,200		
B2	1,000~1,100		

< 2月の牛肉輸入量予測 >

財務省の貿易統計によると、12月の輸入牛肉通関量は前年同月比8.7%増の3万6,926tと前年を上回った。4ヵ月ぶりの4万t割れとなったが、チルド・フローズンともに昨対を上回り前月比でも好調を維持した。とくにフローズンは昨年が日豪EPA発効の関係で一部通関を繰り延べた影響があり昨対比で増加となった。また、発行から1年ほど経過したが年間を通してみても大幅な増加はみられなかった。

農畜産業振興機構は2月の牛肉輸入数量予測を、前年比12.4%減の3万1,000t。チルドは豪州産が例年に比べて食肉処理場のクリスマスや年始の休業が長期間となったため3.9%減の1万2,800t、フローズンは在庫量が多いことなどを背景に大幅に下回り17.4%減の1万8,200tと予測している。

輸入牛肉通関量		12月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	11,304	11,594	97.5%
	米国	6,618	5,635	117.4%
	その他	851	997	85.4%
	合計	18,773	18,226	103.0%
フローズン	豪州	9,895	8,090	122.3%
	米国	6,617	5,166	128.1%
	その他	1,641	2,479	66.2%
	合計	18,153	15,735	115.4%

単位：t

出典：食肉速報

小動物事業部

食肉流通統計によると、12月の全国と畜頭数は148万3,806頭(前年同月比101.0%)となり前年より増加した。また、12月分の豚肉通関実績は、総量で6万7,773t(前年同月比119.5%)と前年より大幅に上回った。うちチルドが2万9,407t(同105.5%)と増加した。内訳は米国が1万7,654t(同110.3%)、カナダは1万616t(同97.7%)、メキシコが1,133t(同114.3%) フローズンは3万8,366t(同132.9%)と前年を大きく上回り、デンマークが9,097t(同152.7%)、米国が2,978t(同72.5%)、カナダが3,373t(同183.1%)、メキシコが5,340t(同131.5%)であった。

< 1月の豚取引の推移 >

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
6日	76,300	524	448	1120
7日	76,600	478	437	1259
8日	77,500	469	423	1091
12日	77,900	437	384	1087
13日	74,000	433	375	1122
14日	73,700	425	365	996
15日	74,700	406	373	1178

上旬の全国と畜頭数は1日あたり7万5,800頭と前年を上回る頭数であった。また、当市場も平均1,100頭と前年並みの上場頭数であった。新年のスタートの週は3連休を控えていたものの、消費の伸びは今一つで、バラ、カタロースの動きは鈍く、一方、ウデ、モモは学校給食の再開もあり良化した。出荷頭数の多さから軟調な相場展開となった。3連休明けも全体的な動きもなく暖冬の影響が大きく出た形となった。上物価格は年明け520円を付けたものの400円まで大きく下げた。

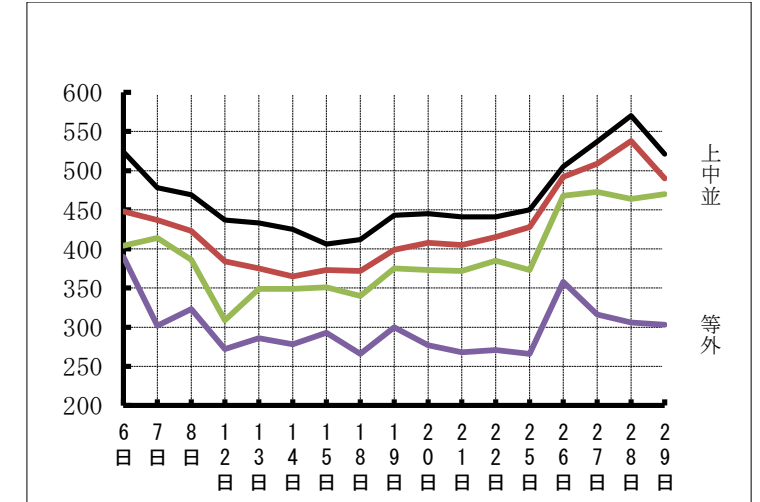
中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
18日	67,900	412	372	1116
19日	70,000	443	399	913
20日	66,000	445	408	518
21日	71,300	441	405	800
22日	71,400	441	415	1040

中旬の全国と畜頭数は前年を上回ったものの、1日あたり6万9,300頭と7万頭を割り込んだ。18日の関東地方の大寒により、当市場も20日には518頭と少ない上場となった。また、周辺市場の出荷頭数にも影響が出た為、上物価格は410円から440円まで若干持ち直した。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
25日	57,500	450	428	923
26日	64,700	505	492	995
27日	66,600	537	509	792
28日	67,400	570	538	788
29日	68,900	521	490	1027

下旬の全国と畜頭数は6万5,000頭となり、前年並みとなった。また当市場の上場頭数は平均900頭と前年を下回る上場頭数となった。気温の低下による鍋物需要の増加に加え、カタロース、ロースなど特売も行われた。また、先週の大寒による輸送遅れの影響や、周辺市場の臨時休業も重なり、上物価格450円から570円まで高騰した。

豚 日別相場表 (1月)



< 2月の豚枝肉相場見通し >

農水省による2月の全国と畜頭数は、135万8,000頭(前年同月比106.0%)と予測しており一日当たりの頭数は約6万7,900頭である。当市場の2月の集荷予定頭数は1万7,000頭となっており、一日当たりでは約850頭の見込みである。

また、農畜産業振興機構による2月分の豚肉輸入見込数量は、総量で6万3,500t(前年同月比117.7%)の予測となっている。内訳はチルドが2万7,100t(同131.7%)、フローズンは3万6,400t(同109.0%)の予測である。

また11月における豚肉推定在庫量は、国産品が1万5,863t(前年同月比82.9%)、輸入品は14万3,440t(同77.7%)となり合計15万9,303t(同76.2%)となった。推定出回り量は14万7,677t(前年比104.8%)で前年を上回った。うち国産品は7万7,552t(同108.1%)輸入品は7万125t(同101.4%)であった。国内生産量は7万7,492t(同109.5%)と引き続き前年を上回った。

このような状況の中、2月も1月同様消費が鈍い時期であるが、寒さが一層厳しくなれば鍋物需要を中心とした動きがみられることや、PEDによる影響で全国と畜頭数より減少する事も予測される。よって、平均上物500円 中物470円前後を予測する。

出荷者の皆様へ

PEDをはじめとする様々な病気を予防するため、東京食肉市場では防疫体制を強化しております。来場の際における生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127

URL <http://www.tmmc.co.jp/>